

特別科目

- 052002200 醍醐寺講座・京の文化財
- 052002300 醍醐寺講座・インド仏教思想史
- 052003100 マンダラと梵字 8A
- 052003200 マンダラと梵字 8B
- 052006700 チベット仏典講読〜ツォンカバ著『入中論広釈“密意明解”』を読む
- 052008100 スタディツアー 東インド オディシャ地方の密教美術と宗教文化
- 052009300 修験学実践講座
- 052010100 ネパール仏教講座
- 052013100 真言宗の常用經典に学ぶ
- 052012100 仏教クリエイティブ_社会実装プロジェクト (PBL) (オンライン)
- 052012100 総本山善通寺寄付講座・弘法大師と聖地巡礼

注 意 事 項

※時間割の見方

月 5 …………… 月曜日、5 限目

オ土 6 …………… オンデマンド授業、土曜日、6 限目

その他欄確認 …………… その他欄に集中講義日程記載。1～5 限目で実施

授業内で確認 …………… 実習期間は授業内で決定

コード	履修科目名		(担当教員)				
052002200:	醍醐寺講座・京の文化財		(壁瀬 智泉)				
単位	2	期別	秋学期	学年	1年次～	時間割	木4

到達目標

真言宗醍醐派の総本山醍醐寺は、平安時代に創建されている。その醍醐寺に伝わる歴史、文化財を通して、京都に伝わる文化に興味を持つ。

キーワード

醍醐寺の所有する多彩な文化財を通して京都の歴史と文化を知る。

事前・事後学習

授業内容

まず、取り上げる文化財を所有する醍醐寺の概要を講義する。次に配布する資料やスクリーンに映し出した画像で、各分野(絵画や彫刻、建造物等々)別に、成立過程や特色を解説する。同時に、各分野に共通する時代的特色が文化財に及ぼした影響を考える。授業は教室での講義が中心となるが、学外授業として醍醐寺や東寺における文化財見学も実施し、実際に文化財を目にしなが、教室の講義だけでは実感しにくい、文化財の魅力についても理解を深めるようにする。文化財を生み出した儀礼にも触れる。

成績評価方法

講義への出席：60% 講義中の小テスト：20% 受講態度：20%

課題に対するフィードバック

授業計画

1. 文化財の概要。文化財保護法が規定する文化財の範囲にとどまらない、京都の文化を表す様々な有形無形文化財について基本的説明を行う。
2. 醍醐寺とその塔頭である三宝院や理性院、金剛王院の歴史の概要を講義する。
3. 真言宗の法流に関わる史料を中心に、小野流の中心である三宝院流の分派と合流を解説する。
4. 醍醐寺の作品解説 国の指定文化財となっている仏画や仏像を直接見るため醍醐寺霊宝館での学外授業とする。
5. 醍醐寺の国宝や重文に指定されている「文書・聖教」を学ぶ。
6. 祈りの世界を考え、密教美術の誕生を考える。
7. 彫刻の素材と技法を簡単に説明する。加えて木造彫刻の技法である「一本造り」と「寄木造り」について、樹種も含めて講義する。
8. 醍醐寺の国宝薬師如来を中心に平安期の彫刻の特徴の概要を講義する。鎌倉期の彫刻、快慶と醍醐寺にも触れる。
9. 史跡・名勝への理解を三宝院庭園を鑑賞して深める。学外授業(醍醐寺三宝院)。
10. 醍醐寺にある国宝建造物である五重塔や金堂も見学し、その文化財としての価値を学ぶ。
11. 醍醐寺の絵画。平安期から南北朝までの仏画を示し、各時代の特色を解説する。
12. 醍醐寺の白描画像。仏画の写しや下絵として作成された白描画像の意義を解説する
13. 醍醐寺所蔵の近世絵画から感じられる安土桃山～江戸期の文化を学ぶ。
14. 文化財の誕生と伝承を知るため、法会の流れ等々に触れる。東寺(教王護国寺)での学外授業を予定している。
15. 文化財の伝承に大きな力を持つ宗教行事を踏まえ、文化財の保存に必要な修理について学ぶ。

テキストおよび参考文献等

- <テキスト>
- <参考文献>

その他

コード	履修科目名				(担当教員)		
052002300:	醍醐寺講座・インド仏教思想史				(中田 順英)		
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	木4

到達目標

仏教思想を理解する為に、仏教誕生の地であるインドの歴史を仏教以前より学び始め、仏教誕生の要因を探る。さらに、仏教思想の流れをその原点から理解し、その展開を大乘仏教、密教へと学びをすすめる。さらに、密教が日本への伝来課程において、現在の信仰形態へと発展する中で、その基本は常に「存在の探求」であることが理解する。「祈り」と「実践」の中で、いかに仏教の思想形態が確立していったかを学びながら、あわせ、現代社会の中でいかに仏教思想が役立つかを探求していきたい。

キーワード

インダス文明、バラモン教、アーリア人、ヴェーダ聖典、ウツパニシャッド、梵我一如、沙門、シャカ族、ブッダ、初期仏教、四諦八正道、縁起説、無我論、仏教教団、サンガ、三蔵、六派哲学、アピタルマ、存在の分析、唯識、瑜伽行派、中観、宇宙論、空思想、如来蔵思想、仏教論理学、タントラ、曼荼羅、密教、空海、真言宗、三密加持、密教と宇宙、宇宙寺院

事前・事後学習

事前に仏教の基礎を簡単な入門書などを読んで学んでおいて欲しい。本として、手塚治虫氏の「ブッダ」や、司馬遼太郎氏の「空海の風景」など仏教関連のものを、一読しておいて欲しい。書店やコンビニにおいてある仏教や密教の入門本でも良い。少しでも仏教思想に興味をもって講義をうけていただきたい。事後については、講義のなかで探求本などを紹介するのでそれらを読誦し、より興味を深めてほしい。

授業内容

仏教は、釈尊が人の心の根本にある「苦」について思いを巡らせたことに始まり「人間存在の探求」こそが仏教の基本です。人間とそれをとりまく自然環境の営みに心を寄せ、全ての命、事象の理りを説く縁起説を中心とした仏教の思想の展開を学びます。そのスタートは、仏教誕生以前のインドにその思想の源流を求めながら、その展開を考察します。仏教を知る上で、まず、仏教を生み、育てたその土壌であるインドの歴史を学ぶことが重要です。仏教以前のインドの文明を中心にいかにして仏教が誕生したかを探ります。そして、その思想体系と釈尊の思想を考察し、原始仏教、部派仏教、大乘仏教とインドでの思想的展開をまとめながら、次に、仏教の東漸に沿って、チベット、中国、日本へと伝わる中での、地域性や時代性を加味しながら、如何にして密教が現在の形に発展していったかを考察していきます。そして、その基本には常に「人間」探求があることを認識し、現代における仏教思想の役割についても念頭におきながら、仏教思想について検証していきたいと思います。

成績評価方法

出席：60% 小論文：20% 期末レポート：20%

課題に対するフィードバック

授業計画

1. 仏教誕生以前のインド文明：インダス文明
2. 仏教誕生以前のインド思想：バラモン教とヴェーダ思想
3. 釈尊誕生：仏教の開祖、釈尊誕生時のインドについて学ぶ、釈尊の生涯をたどる
4. 人間釈尊の思想：なぜ釈尊は出家をして、さとりを求めたのか
5. 初期仏教の思想① 釈尊の根本思想
6. 初期仏教の思想② 原始仏教の思想体系
7. 教団の成立と部派仏教① 仏教教団の成立
8. 教団の成立と部派仏教② 部派の成立とその思想
9. 教団の成立と部派仏教③ アピタルマの思想とその発展
10. 大乘仏教の成立 仏塔崇拝に始まる在家仏教の誕生
11. 大乘仏教の思想体系① 「空」の思想体系の成立と発展
12. 大乘仏教の思想体系② 大乘仏教思想の発展、インド哲学との論争
13. 密教史相の萌芽 密教の源流を探る
14. 仏法東漸 大乘仏教思想と展開 チベット、中国そして日本へ
15. 真言密教の成立 弘法大師空海による日本への密教の伝搬について

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ その都度プリントを用意します
 ＜参考文献＞

その他

コード	履修科目名					(担当教員)	
052003100:	マンダラと梵字8A					(今井 淨圓, 児玉 義隆)	
単 位	2	期 別	春学期	学 年	1年次～	時間割	火6

到達目標

- ①梵字を正しい筆法で書くことができる。
- ②梵字について関心を持ち、自ら進んでその内容を理解して、人に伝えることができる。

キーワード

密教、空海、入唐八家、梵字、マンダラ、字母表、摩多体文、朴筆の運筆規則、十三仏

事前・事後学習

あらかじめ、授業で扱う人名・地名・仏教要語などを辞書や辞典で調べ、予習したことをノートにまとめておくこと。授業時間以外でも、筆を持って実修に励むこと。

授業内容

梵字は弘法大師空海によって、わが国にもたらされて以降、卒塔婆・石塔・マンダラ・密教法具など、さまざまな形で伝承されてきました。本講義では、古代インド文字である梵字の歴史やその書き方、読み方の基本を学びます。さらに受講者自身にも梵字による種子マンダラを筆写してもらいます。春学期には十三仏の種子マンダラを描き、あわせて十三仏の真言を梵字で書きます。この授業においては、梵字の書き方を児玉が、作例に関する講義を今井が担当します。

成績評価方法

平常点：30%（主に出席状況によって評価します。ただし、遅刻等の受講態度不良は減点の理由になります）定期試験：70%（作品提出により評価します）

課題に対するフィードバック

提出された小レポートや作品についてコメントをつけて返します。梵字実修に入れば、それぞれの作品を添削して指導します。

授業計画

- | | |
|---|---|
| 1.【講義】 （児玉義隆 担当） <ol style="list-style-type: none"> 1. 梵字の歴史について 2. 摩多(母音)体文(子音)の解説 3. 摩多体文の書法1 4. 摩多体文の書法2 5. 切継(きりつぎ)字の書法(子音字の結合) 6～9. マンダラに用いられる種子の書き方 10～12. 作品制作とまとめ | 2.【講義】 （今井淨圓 担当） <ol style="list-style-type: none"> 1. 密教の歴史 2. さまざまなマンダラについて 3. 十三仏信仰について 4. 十三仏の真言について |
|---|---|

テキストおよび参考文献等

- ＜テキスト＞ 児玉義隆『梵字必携』 朱鷺書房 1991年
 ＜参考文献＞ 児玉義隆『梵字で見る密教 その教え・意味・書き方』 大法輪閣 2002年
 児玉義隆『梵字の書法－真言密教・ほとけの文字－』 大法輪閣 2005年 【絶版】
 種智院大学『新梵字大鑑』 法蔵館 2015年 【絶版】

その他

大学コンソーシアム京都提供科目(大学コンソーシアム京都で授業実施)

コード	履修科目名					(担当教員)	
052003200:	マンダラと梵字8B					(今井 淨圓, 児玉 義隆)	
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次~	時間割	火6

到達目標

- ①梵字を正しい筆法で書くことができる。
- ②梵字について関心を持ち、自ら進んでその内容を理解して、人に伝えることができる。

キーワード

梵字、密教、マンダラ、字母表、摩多体文、朴筆の運筆規則、別尊マンダラ

事前・事後学習

あらかじめ、授業で扱う人名・地名・仏教要語などを辞書で調べ、予習したことをノートにまとめること。授業時間以外にも、筆を持って実修に励むこと。

授業内容

梵字とは悉曇文字のことで、悉曇は梵語の「シツダム」を漢字で音写したもので、シツダ(成就する)から、「成就吉祥あれ」の意味に解されています。4世紀後半にインドより仏教とともに中国に伝承された当時の梵字は、書体および字母を悉曇として、梵語文法や句語解釈などを梵音と言っていました。わが国に悉曇梵語が伝来してからは、転じて梵字の書体だけではなく、広く梵語の書法、読法、文法など、すべてを内包した総称として、「悉曇」と呼ばれるようになりました。悉曇を形成する基礎的な文字が梵字です。

本講義では古代インドに始まる梵字の歴史やその書き方、読み方の基本を学びます。とくに梵字で描かれた別尊マンダラの作例をあげながら、その教理的な背景を解説し、さらに受講者自身にも種子マンダラの作品を描いてもらいます。秋学期に描く種子マンダラについては未定です。この授業においては、梵字の書き方を見玉が、マンダラに関する講義を今井が担当して行います。また春学期にマンダラと梵字8Aを受講していなくとも、梵字の書き方の復習から始めるので、秋学期からの受講も可能です。

成績評価方法

平常点:30% (主に出席状況によって評価する。ただし、遅刻等の受講態度不良は減点の理由になります)

定期試験:70% (作品提出により評価します)

課題に対するフィードバック

提出された小レポートや作品についてコメントをつけて返します。梵字実修に入れば、それぞれの作品を添削して指導します。

授業計画

- | | |
|--|--|
| <p>1. 【講義】(児玉義隆 担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 梵字の歴史について 2. 摩多(母音)体文(子音)の解説 3. 摩多体文の書法1 4. 摩多体文の書法2 5. 切継字の書法(子音字の結合) 6~9. この陀羅尼に用いられる種子の書き方 10~12. 作品制作とまとめ | <p>2. 【講義】(今井淨圓 担当)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 密教の歴史 2. さまざまなマンダラの種類について 3. 作画する種子マンダラについて |
|--|--|

テキストおよび参考文献等

- 〈テキスト〉 児玉義隆『梵字必携』朱鷺書房 1991年
- 〈参考文献〉 児玉義隆『梵字で見る密教—その教え・意味・書き方—』大法輪閣 2002年
 児玉義隆『梵字の書法—真言密教・ほとけの文字—』大法輪閣 2005年 【絶版】
 種智院大学『新梵字大鑑』法蔵館 2015年 【絶版】

その他

大学コンソーシアム京都提供科目(大学コンソーシアム京都で授業実施)

コード	履修科目名	(担当教員)					
052006700:	チベット仏典講読～ツォンカパ著『入中論広釈 “密意明解”』を読む	(平岡 宏一)					
単 位	2	期 別	春学期	学 年	2年次～	時間割	水5

到達目標

慈悲と大悲の違い、菩提心の意味、空性の定義など大乘仏教の基本概念が理解できる

キーワード

慈悲、空性、布施、持戒、忍辱、精進、禅定

事前・事後学習

復習を必ずしなければならない

授業内容

ツォンカパが遷化の前年1418年に著した『入中論広釈“密意明解”』を読む。講師の平岡は、この著書をインドのギュメ密教学問寺に留学中(1988～1989)に読む機会を得た。また、日本に帰国後、東洋文庫に在籍しておられたデブン寺ゴマン学堂醍七十五世座主テンパ・ゲルツェン師(1932～2012)に就き、1992年から1997年までの五年間を掛けて全体を伝授頂いた。密教を理解するためには、波羅蜜乗の考え方を学ぶことは重要である。密教を学ぶ上での必要な顕教の知識はすべて網羅されている『入中論』を、今回の講義では先生方の伝授に基づき、ツォンカパの『入中論』の註釈を布施波羅蜜より和訳してわかりやすく解説する。

成績評価方法

期末筆記試験により厳正に評価する

課題に対するフィードバック

筆記試験60分実施後、30分を用いて解説を行う

授業計画

1. 阿頼耶識を承認しなくとも、業と果の関係性が妥当だと証明する
2. 滅と無の関係
3. 阿頼耶識が存在するという経文の真義
4. 阿頼耶識と意識の関係
5. 唯識説の説明
6. 唯識の唯は、外境がないことを示すのではないこと
7. 夢の譬え
8. 外境の存在
9. 過去・現在・未来の習気の力1
10. 過去・現在・未来の習気の力2
11. 外境なしに意識が存在するか否か
12. 唯識を否定する経のお言葉
13. 依他起性の存在について
14. 自証知の否定
15. 唯識が世俗諦でも勝義諦でも否定されること

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 授業毎に和訳のプリントを用意する

〈参考文献〉 小川一乗著『空性思想の研究Ⅱ』文栄堂 昭和63年

その他

コード	履修科目名	(担当教員)					
052008100:	スタディツアー「東インド オディシャ地方の密教美術と宗教文化」	(松本 峰哲)					
単 位	2	期 別	秋集中	学 年	1年次～	時間割	その他欄確認

到達目標

インドの宗教・文化に関する事前学習の知識を元に、インド現地にてフィールドワークを行うことができる。

キーワード

インド宗教文化、密教文化、密教美術

事前・事後学習

事前講義で訪問先について詳しくお話ししますので、講義後は自身でもしっかりと復習をし、現地で何を学ぶか、自身の目標をしっかりと立ててインドでのフィールドワークに参加してください。

授業内容

仏教は元々インド発祥の宗教であり、特に日本の密教の元となった7世紀ごろの中期インド密教はヒンドゥー教やインドの様々な土着信仰の影響を強く受けています。したがって密教を深く理解するためには仏教を含めたインドの宗教・文化を理解することが重要です。

本講座では事前学習と共に実際にインドの聖地・博物館等を訪れ、インドの宗教・文化を直接体験してもらいます。事前学習は集中講義として、原則秋学期集中講義期間中に実施します。

本年度は東インド・オディシャ州を訪問します。オディシャ州(旧オリッサ州)は8世紀から12世紀に仏教王朝パーラ朝が栄えた地であると同時に、この地でしか信仰されていないジャガンナート神など独自の宗教文化を伝えています。ツアーでは当時の密教文化を伝えるラトナギリ・ウダヤギリ・カンダギリ遺跡や、これらの遺跡からの発掘品を収蔵する博物館、ジャガンナート寺院、そして隣接する世界遺産スーリヤ寺院等を訪問する予定です。

成績評価方法

事前授業及び現地学習での参加態度：40%

帰国後のレポート提出：40%

課題に対するフィードバック

レポートは後日コメントを付けて返却します。

授業計画

- | | |
|-----------------------------|----------|
| 1. イントロダクション ～スタディーツアー概要説明～ | 9. 現地学習 |
| 2. 密教とインド文化・インド新仏教とは? | 10. 現地学習 |
| 3. インドの仏教以外の宗教 | 11. 現地学習 |
| 4. インドでの見学ポイント | 12. 現地学習 |
| 5. 事前学習のまとめと渡航前注意事項の確認 | 13. 現地学習 |
| 6. 現地学習 | 14. 現地学習 |
| 7. 現地学習 | 15. 現地学習 |
| 8. 現地学習 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特にありません

〈参考文献〉 事前学習にて適宜紹介します。

その他

日程は事前学習を2026年1月28日、現地訪問を2026年2月9日から14日(6日間)、費用は約35万円を予定していますが変動する可能性があります。

詳しいツアー内容については事前説明会を開催しますので、受講希望者は必ず参加して下さい。

受講者数が最低定員に満たない場合には休講(渡航取りやめ)となる場合があるので注意して下さい。

大学コンソーシアム京都提供科目(事前学習は大学コンソーシアム京都で実施)

コード	履修科目名	(担当教員)					
052009300:	修験学実践講座(吉野・大峰峯入修行体験)	(田中 利典)					
単 位	2	期 別	春集中	学 年	1年次～	時間割	その他欄確認

到達目標

修験道の概要を学び、実践活動を通じて、日本の宗教・文化について理解する

キーワード

修験道の実践と概要。日本の宗教・文化の理解

事前・事後学習

事前：参考文献を熟読しておくこと。授業で扱うテーマを参照し自分なりの課題をノートにまとめること。
事後：実践講義では感想や体験レポートを提出すること(800～1000字程度)。

授業内容

日本古来の山岳信仰に、神道や外来の仏教(特に密教)、道教などが習合して成立した我が国固有の民俗宗教が修験道である。修験とは「実修実験」「修行得験」という意味を指し、実践を重んじる民衆宗教でもある。その概要を学ぶとともに、夏休み中に実習講義として、奈良の吉野・大峯山での登山(峯入り)修行を実施する。吉野・大峯山は、日本を代表する修験道の聖地で、山に入って修行することを峯入(みねいり)修行というのがその根本聖地である。修験道は聖なる山岳を舞台とする大自然の宗教であり、神仏習合を基盤とし、密教とも深く関わりつつ展開してきた、日本の民俗宗教の真髄ともいえる。その修験道について、講義形式による座学と合わせて、実際の峯入り修行の体験を通じて、日本の宗教文化について理解を深める。宗教は頭だけで理解するのではなく、身体性を持つ体験を通じて体感・体得することが大切である。実習講義は8月中の1泊2日の行程で実施する(8/8～8/9 実施予定・・・実施時の状況に応じて変更)。①まず事前学習として修験道の概要について講義を行い、②つづいて登山修行を行い、③修行後に体験で得たことの総括討議を行い、④最後にレポートにまとめて提出する。※実習講義のルートは大峯山中の峯入ルートを計画している。吉野山一金峯神社一大峯九十丁一大峯百丁(旧二蔵宿)一大天井ヶ岳一五番関※実習費:4～5万円程度。※受講人数:10～20名程度以上。一定数に満たない場合は開講しない場合もあるので、卒業所要単位とは別途(※女性で履修を希望する者は単位登録前に教務課に事前相談のこと)の履修を考慮するのが望ましい。

成績評価方法

事前学習(座学) 50%、実習(峯入修行) 30%、総括と事後レポート 20%

課題に対するフィードバック

フィードバックとしてレポートにコメントを残す。最終授業後に全体向けにフィードバックを行う。

授業計画

- | | | | |
|---------|-----------------|----------|-------|
| 1. 事前学習 | 修験道の概要①修験道7つの要諦 | 9. 体験実習 | 峯入り修行 |
| 2. 事前学習 | 修験道の概要②修験道の歴史 | 10. 体験実習 | 峯入り修行 |
| 3. 事前学習 | 開祖役行者御一代記と蔵王権現 | 11. 体験実習 | 峯入り修行 |
| 4. 事前学習 | 修験道の思想と教義 | 12. 体験実習 | 峯入り修行 |
| 5. 事前学習 | 修験道の儀礼 | 13. 体験実習 | 峯入り修行 |
| 6. 事前学習 | 天狗と山伏と修験の霊山 | 14. 体験実習 | 峯入り修行 |
| 7. 事前学習 | まとめ.修験道の現状と未来 | 15. 総括討議 | |
| 8. 体験実習 | 峯入り修行 | | |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ なし。その都度資料配付。

＜参考文献＞ 田中利典『修験道入門 - 体を使って心をおさめる』集英社(新書)2014年
田中利典・正木晃共著『はじめての修験道』春秋社 2004年
田中利典・宮城泰年・内山節共著『修験道という生き方』新潮社(選書)2019年

その他

過年度の「修験学実践講座」を履修した者も重ねて履修可能である。

事前授業：4/22・5/13・5/27・6/10・6/24・7/8・7/22 各日程第4講時(14:30～16:00)に実施
大学コンソーシアム京都提供科目(事前授業は大学コンソーシアム京都で実施)

コード	履修科目名				(担当教員)		
052010100:	ネパール仏教講座				(スダン シャキヤ)		
単 位	2	期 別	秋集中	学 年	1年次～	時間割	その他欄確認

到達目標

ネパールに伝わる生きた仏教の思想・儀礼・文化を理解することにつながる

キーワード

釈迦生誕地、インド仏教、九法、梵語写本、写本文化、言葉の効力、クマリ、サンガ、グティ（講）

事前・事後学習

配布資料を参考に講義内容を復習すること

授業内容

本講義は、ネパールの仏教を知るための入り口である。釈迦生誕地ルンピニーは現在ネパールの南、インド国境沿いに接しており、首都カトマンズから約400キロの距離にある。首都のあるカトマンズ盆地には400に登る古い仏教寺院が点在し、ネワール民族が大乗仏教・密教を実践している。彼らはチベット・ビルマ語族に属するネワール語を母語としているため、この仏教を「ネワール仏教」と称する。一方、ネパールを代表する仏教でもあるために「ネパール仏教」とも呼ばれている。ネパール仏教は、13世紀初頭にインドで滅んだサンスクリット語を中心とするインド仏教・密教を継承する唯一の仏教である。今日でも真言・陀羅尼・経典などの読誦に加え、曼荼羅儀軌など儀礼次第など全てがサンスクリット語で行われて、それに基づいた宗教文化も定着している。その他、現在のネパールではチベット仏教と共に近年ビルマやスリランカから再流入されたテラヴァーダ仏教も普及している。そのため、ネパールに現存する仏教を学ぶことが仏教全体の理解に一助となるであろう。

成績評価方法

平常点 50% レポート 50%

課題に対するフィードバック

講義後に感想文を書いてもらい、それに対してコメントを返す。

授業計画

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. はじめに ネパールの歴史・宗教の概要 | 9. ネパール仏教と祭り 観音・文殊信仰 |
| 2. ルンピニー 釈迦生誕地の現状 | 10. 造型文化 仏像・絵画の伝統技法 |
| 3. インド仏教の受容と変容 ネパール仏教の位置付け | 11. ネパール仏教の特有の図像と思想的背景 釈迦・般若母・観音の三尊形式、108観音、帰郷図 |
| 4. ネパール現存の三種の仏教 | 12. 写本文化 ネパール現存の仏教写本と研究発展における役割 |
| 5. ネパール仏教の寺院の構成と所属するものたち | 13. 生き神クマリ信仰 ネパールの宗教・文化の共存のシンボル |
| 6. 思想的な基盤 九法など経典、儀礼次第 | 14. 日本とネパールの交渉史 |
| 7. 仏教儀礼の特徴三宝帰依を示す三種の曼荼羅・九法の典拠 | 15. まとめ:仏教研究発展におけるネパール仏教役割 |
| 8. ネパール仏教と祭り 仏塔信仰 | |

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 特になし。

〈参考文献〉 田中公明・吉崎一美『ネパール仏教』春秋社；

スダン・シャキヤ「ネパール仏教における三宝帰依と三種のマンドラー梵語及び梵語・ネワール語混成資料を中心に」『密教学』第51号pp. 211-227；

スダン・シャキヤ「衆生救済の在り方に関する考察」『日本佛教学会年報』第87号、pp.72-101

その他

2月3日、4日、5日、実施。

コード	履修科目名	(担当教員)					
052012100:	仏教クリエイティブ 社会実装プロジェクト(PBL) (オンライン)	(岡村 暢一郎、村主 康瑞)					
単 位	4	期 別	通年	学 年	1年次～	時間割	水5

到達目標

本授業では、仏教的思考や価値観を基礎とした「クリエイティビティ」と、プロジェクトを社会で実装するための実践的スキルを学ぶ。具体的には、アイデア創出・プロジェクトマネジメント・実装計画の立案と実行を通じて、多様なステークホルダーとの協働や地域社会への貢献を体験的に学ぶ。

キーワード

仏教的思考 / クリエイティブシンキング / 社会実装 / プロジェクトマネジメント / チームビルディング・リーダーシップ

事前・事後学習

事前学習：文献・資料の読解 / 事例調査・情報収集 / グループミーティングの準備
事後学習：授業内容の整理・復習 / 追加リサーチ・課題実践

授業内容

本授業では、仏教の価値観を軸とした創造性の育成と、プロジェクトの社会実装を実践的に学びます。仏教思想に基づく多角的な思考法と、デザイン思考やブレインストーミングなどの技法を組み合わせ、社会課題や文化的テーマへのアプローチを考える。

成績評価方法

プロジェクト企画書・進捗レポート(40%)、授業内での活動・貢献度(20%)、最終プレゼンテーション・成果物(30%)、最終レポート(10%)

課題に対するフィードバック

教員からのフィードバックに加えて、ピア・フィードバック(学生相互評価)として、グループ内フィードバック / クロスグループ・フィードバックや自己フィードバック(リフレクション)を行う

授業計画

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. オリエンテーション | 16. プロトタイピング(1) |
| 2. 仏教的思考とクリエイティビティ(1) | 17. プロトタイピング(2) |
| 3. 仏教的思考とクリエイティビティ(2) | 18. 実践準備(1) |
| 4. アイデア創出の手法(1) | 19. 実践準備(2) |
| 5. アイデア創出の手法(2) | 20. 実践フェーズ(1) |
| 6. チームビルディングとリーダーシップ | 21. 実践フェーズ(2) |
| 7. プロジェクトマネジメント入門(1) | 22. 実践フェーズ(3) |
| 8. プロジェクトマネジメント入門(2) | 23. 成果の収集(1) |
| 9. 社会実装のためのリサーチ手法 | 24. 成果の収集(2) |
| 10. 仮想プロジェクト課題提示とチーム編成 | 25. 成果報告準備(1) |
| 11. 企画立案(1) | 26. 成果報告準備(2) |
| 12. 企画立案(2) | 27. 成果報告会(1) |
| 13. 企画プレゼンテーション | 28. 成果報告会(2) |
| 14. ブラッシュアップ | 29. 振り返りワークショップ |
| 15. 前期総括 | 30. 全体講評・総括 |

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞

＜参考文献＞ 適宜関連書籍・論文を授業内で紹介。

その他

チームワークが中心となるため、出席ならびに積極的な参加が不可欠。オンライン(同時配信型)大学コンソーシアム京都提供科目

コード	履修科目名						(担当教員)
052013100:	真言宗の常用経典に学ぶ						(佐々木 大樹)
単 位	2	期 別	春集中	学 年	1年次～	時間割	その他欄確認

到達目標

真言宗の常用経典の読解を通じて大乘仏教・密教の教理・実践に関する基礎的知識を身につけ、その理解した内容を説明することができる。

キーワード

『九条錫杖』『観音経』『般若心経』『般若理趣経』『仏説聖不動経』『舍利礼文』『舍利和讃』

事前・事後学習

事前学習：経典中に出てくる仏教語について調べる。

事前学習：授業内容を振り返り、自分の言葉で表現できるようにする(リアクションペーパー)。

授業内容

弘法大師空海を開祖とする真言宗は、密教を核とする仏教であるが、実際の法要では、大乘仏教から密教に至る多様な経典が読誦されている。本授業では、真言宗の法要で常用読誦されることが多い、『九条錫杖』『観音経』『般若心経』『般若理趣経』『仏説聖不動経』『舍利礼文』『舍利和讃』の読解を通じて、経典の意味や読誦の機能、また背景にある大乘仏教や密教の教理・実践について学習する。

成績評価方法

リアクションペーパー(60%:3回実施)、平常点(40%:出席状況、受講態度、事前・事後学習の取り組み)をもとに総合的に評価する。

課題に対するフィードバック

授業5回毎に実施するリアクションペーパーにもとづき、最終授業時に全体に向けて総合的なフィードバックを実施する。その他、必要に応じて適宜授業の中でフィードバックを行う。

授業計画

1. はじめに、『九条錫杖』を読む1
2. 『九条錫杖』を読む2
3. 『観音経』を読む1
4. 『観音経』を読む2
5. 『観音経』を読む3、リアクションペーパー1
6. 『般若心経』を読む1
7. 『般若心経』を読む2
8. 『般若理趣経』を読む1
9. 『般若理趣経』を読む2
10. 『般若理趣経』を読む3、リアクションペーパー2
11. 『仏説聖不動経』等を読む
12. 『舍利礼文』を読む
13. 『舍利和讃』を読む1
14. 『舍利和讃』を読む2、リアクションペーパー3
15. まとめ(リアクションペーパーに対する総合的なフィードバック)

テキストおよび参考文献等

＜テキスト＞ 訓読資料を配付する

＜参考文献＞ 坂田光全『真言宗常用経典講義』。その他、講義内で適宜紹介する

その他

8月4日、5日、6日実施。

コード	履修科目名						(担当教員)
052014100:	総本山善通寺寄付講座・弘法大師と聖地巡礼						(松村 幸彦)
単 位	2	期 別	秋学期	学 年	1年次～	時間割	金3

到達目標

「聖地巡礼」を切り口として弘法大師やインド仏教に関連する基本的な知識の理解と修得を目指す。

キーワード

弘法大師、四国遍路、聖地巡礼、インド仏教、インド密教儀礼

事前・事後学習

配布プリントや参考文献などを適宜用いて復習を行うこと。

授業内容

「聖地巡礼」をキーワードに、真言宗の開祖・弘法大師を始めインド仏教、仏教以外の世界の諸宗教における聖地と宗教の関係を概観する。弘法大師には三大霊跡とされる高野山・東寺・善通寺のほか、大師にゆかりのある寺院を巡る四国八十八ヶ所巡礼など多くの「聖地」とその実践が存在する。本授業ではこれら聖地と弘法大師との関係を解説するとともに、釈尊由来の聖地やインド密教儀礼としての「聖地巡礼」などについても解説する。それらを踏まえて弘法大師や仏教における聖地の関係やあり方、それに伴う実践について理解を深めてもらう。なお、授業の内容は進捗状況や学生の要望などによって変更する場合がある。

成績評価方法

レポート(70%)、平常点(30%)

課題に対するフィードバック

毎回の授業冒頭に前回の授業の復習を適宜行う。

授業計画

1. 聖地巡礼
2. 宗教と聖地(1)
3. 宗教と聖地(2)
4. 宗教と聖地(3)
5. 仏教における聖地(1)
6. 仏教における聖地(2)
7. 仏教における聖地(3)
8. 弘法大師と聖地(1)
9. 弘法大師と聖地(2)
10. 弘法大師と四国遍路(1)
11. 弘法大師と四国遍路(2)
12. 弘法大師と四国遍路(3)
13. 弘法大師と四国遍路(4)
14. インド密教儀礼における聖地巡礼(1)
15. インド密教儀礼における聖地巡礼(2)

テキストおよび参考文献等

〈テキスト〉 資料を配布する

〈参考文献〉 授業中に適宜紹介する

その他